

令和7(2025)年度 家庭教育・子育て支援課題解決セミナー 実施報告

実施日：令和7（2025）年12月2日（火）

本研修は、家庭教育・子育て支援に関する講話や意見交換をとおして、参加者が日頃の支援活動を振り返るとともに、社会全体で家庭教育や子育てを支援するために必要な方策について考えることをねらいとして実施しました。ハイフレックス方式で開催し、対面で32名、オンラインで40名、計72名の方に御参加いただきました。

○ 講話「家庭に寄り添う支援～アウトリーチ型支援の充実に向けて～」

宇都宮共和大学子ども生活学部 准教授 石本 真紀 氏

石本氏からは、家庭教育・子育てについての現状や課題、家庭教育支援者や子育て支援者に求められる役割、地域において支援が届きにくい家庭へのアプローチのポイントなどについて御講話いただきました。

はじめに、家庭教育や子育てに関する課題が教育・保健医療・福祉など多岐にわたっていることが示され、なぜ支援が届きにくいのかという根本的な要因について説明がありました。また、「こども基本法」や「こどもまんなか実行計画（2025）」の概要が紹介され、支援を進める視点が示されました。

続いて、アウトリーチ型支援の必要性と目的、ねらいについて説明があり、支援の流れやサポートについて県内外の事例を交えながら具体的に話されました。

最後に、「家庭に寄り添う支援」や「アウトリーチ型支援に活用できる社会資源」についてグループごとに意見交換を行いました。受講者は、講話で得た気付きや学びを踏まえ、それぞれの立場から考えられる支援や仕組みづくり、今後の取組などについて活発に意見を出し合いました。異なる立場の受講者の意見や他市町の取組を知ることで、今後の活動の参考になったようです。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・「支援される“人”ではなく、支援される“時”であるという捉え方で寄り添える」というところに着目できました。グループディスカッションで、支援を必要としている人がたくさんいることも感じました。アウトリーチでどう動けるか、所属する団体で考えていきたいです。
- ・市町の家庭教育・子育て支援者がたくさんいたこと、お話を聞くことができたことで、とても有意義な研修でした。今後の支援施策に役立てたいと思います。
- ・「アウトリーチ」も「ウェルビーイング」も今回の研修で学びました。自分の目指す子育て支援のビジョンが見えた気がしました。
- ・実際に講座を行うときに、話をよく聞いて子どもや保護者のサインをよく見ていきたいと思いました。
- ・同じグループの方と関わりが持てたので、家庭に必要なサポートを考えることができ、参加して良かったです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syogai@pref.tochigi.lg.jp